

令和 7 年 度

生 活 環 境 学 部

第 3 年 次 編 入 学 者 選 抜 学 力 試 験 問 題

# 小 論 文

〔文化情報学科 生活文化学コース〕

令和6年6月8日（土）

13：00～14：30

## 注 意

1. 解答は、別添の解答用紙に書くこと。
2. 総ページ数 ——— 5 ページ  
問題ページ ——— 第2～5 ページ  
(第1 ページは、下書き用紙)
3. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

## I

農林水産省の定義によると、食料自給率とは「我が国の食料供給に対する国内生産の割合を示す指標」であり、単純に重量で計算することができる品目別自給率と、食料全体について共通の単位で揃えて計算する総合食料自給率の2種類がある。前者の品目別自給率は、「品目別自給率＝国内生産量／国内消費仕向量」で計算されている。

図1は日本における牛肉の品目別自給率を示している。一つは飼料が国産か輸入かを加味しないで計算した自給率（輸入飼料を加味しない自給率）、もう一つは飼料が輸入の場合は外国産として計算した自給率（輸入飼料を加味した自給率）である。図2は主要国における穀物自給率の推移を表すグラフである。そして資料1は、食品表示法における食品表示基準第18条第1項イの項目であり、畜産物の「国産」表記に関する記述である。

これらの資料を参考にして、以下の問いに答えなさい。

- 【問1】 牛肉の自給率において、図1のような推移を示している社会経済的要因、および、輸入飼料を加味しない自給率と輸入飼料を加味した自給率で違いが生じる理由を述べなさい。
- 【問2】 資料1の内容を考慮した場合、図1で示されている牛肉の自給率は真の意味での自給率といえるかどうか、理由とともに記述しなさい。
- 【問3】 図1や図2で示された自給率の傾向が今後も続く場合、日本の牛肉生産・市場・消費にどのような社会問題が生じると考えられるか、また、その社会問題を解決するためにあなた自身ができることは何か、あなたの考えを述べなさい。

図は、著作権の関係で掲載しておりません。

図1 日本における牛肉の食料自給率の推移  
出所：食料需給表より作成。

図は、著作権の関係で掲載していません。

図2 主要国の穀物自給率の推移

出所：食料需給表より作成。

資料1

問題文は、著作権の関係で掲載していません。

II

ヤングケアラーに関する2つの資料を読んで、あとの問いに答えなさい。

資料1

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(出典：子ども家庭庁「ヤングケアラー」とは <https://www.cfa.go.jp/policies/young-carer>)

資料2

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(『毎日新聞』2022年6月8日付朝刊)。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(出典：斎藤真緒「あらためて、ヤングケアラー『ブーム』を問う—問題の射程と次元の再考のために—」  
『現代思想』11月号、第50巻第14号、2022年、40～50ページ)

**【問い】**

ヤングケアラーが抱えている問題を医療、福祉、介護、教育、家族関係など複数の視点から整理し、必要とされる支援のあり方についてあなたの考えを述べなさい。